

初夏の陽気となり、新緑の青葉が目眩しいすごし易い季節となりました。熊本地方に先月14日 21:26 マグニチュード 6.5、最大震度7の大きな揺れが実は「前震」にすぎず、それから28時間も経ってから M7.3、最大震度7の「本震」が来るという「今までの経験則から外れた」(気象庁)動きがあり、皆ビックリしますよね。しかも発生から48時間以内に322回もの強震が広い範囲にわたって連鎖的に起きていて「今後地震活動がどうなっていくか分からない」(同)という不安な状態が続いています。

今のところ、北東に接する阿蘇山の噴火に連動するような兆候はないし、ましてや宮崎県沖合を通る南海トラフの海溝型大地震に影響することはないらしい。今回の一連の地震を引き起こした中央構造線沿いの活断層は、広範囲で九州を横断し北東に向かって走っている。その先には四国・佐田岬の伊方原発。南西に向かっているその先には現在稼働中の川内原発がある。この原発があるのでNHKの放送では鹿児島県の震度情報を表示せずに済ましてきた。籾井会長になってからでしょうか？NHKの報道が政府のスポークスマンのようなおかしな報道が目立ちます。クローズアップ現代の国谷アナウンサーの交代もその表れでしょう。国谷裕子氏はもっともっと聞いてほしいというテレビの向こう側の声を感じて、批判的な内容を挙げてのインタビューをすることが聞き手自身の意見だとみなされてしまい、番組は公平性を欠いているとの指摘はたびたび受けている。視聴者の「知る権利」を守るための「公平性」にはあらゆる角度から聞くべきことはきちんと繰り返し聞くことによって事実を浮かび上がらせる。それがフェアなインタビューではないだろうか？テレビというメディアの特性は映像がもつ力にある。しかし、それに頼ってばかりでは視聴者の想像力を奪ってしまう。だからこそ、国谷氏は『クロ現』において「言葉の持つ力」を大事にしてきた、という。“一見わかりやすいことの裏側にある難しさ”を提示するいつものインタビュースタイルが政府関係者にもしてしまったことで降板となったといえる。これとは関係ないと思いますが、テレビ朝日の古舘、TBSの岩井等看板キャスターが4月1日付で交代した。政府が電波停止の可能性をチラつかせてドーカツしようとするのが続くと政府に気を使って、不利な情報は流れません。国境なき記者団の報道の自由度ランキングで日本は2010年の11位から今年は71位になったとか。パナマ文書の件でも日本は調査しないと言うことですから、あまり期待はしていませんが・・・